

【学校教育目標】
思いやりの心と確かな学力、自主・自律の精神を身につけた児童の育成

【本年度の重点目標】自分の考えをもちまとめ表現する力、決まりを守り進んで挨拶ができる、自分の健康をよりよく改善できる、地域の人材・施設・行事等の活用によるふるさとを大切にできる児童

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	校内組織運営の充実	1 職員の協働体制を充実する。 (結果) 事前に管理職と部長との協議を行い、各部の取組が学校の重点目標達成のためであることを教職員と共有できた。教員のAB評価 93%	4 ・職員各位が思い通りに意思疎通できる取組と情報を共有する取組を進めてほしい。 ・よりよい児童の成長を目指し、目標の共通理解を深め全体で取組を進めて行ってください。	<input type="checkbox"/> これまで同様に風通しのよい職場環境に努める。 <input type="checkbox"/> それぞれの組織における取組のねらいの共有と具体策の更なる具体化及び役割の明確化を推進する。
		2 PDCAのサイクルによるマネジメントを行い、改善につなぐ。 (結果)「CAP・Dシート」を活用し、月ごとの具体策を係ごとに明確にした。そして、確実に実行できたかの評価と改善を明確にし、月ごとのサイクルを回してきた。教員AB評価 92%	4 ・短期でのサイクル機能化を点検することができているようです。	<input type="checkbox"/> 「CAP・Dシート」の活用を継続する。教育指導計画書の計画との整合を確かめたり、付加修正を加えたりすることが必要。
		学力向上プランの推進を図る。 (結果) 習熟度別分割授業、基礎基本の定着を図る取り組み、MIMや漢字・算数検定を実施でき、成果が見られた。また、単元テストの国語科・算数科の通過率(正答期待率を通過した児童の割合)に重点を置き、通過率を根拠に学力向上プランの進捗状況を職員で確認していった。AB評価 91%	4 ・授業参観で、毎日思うことは昔に比べて教え方がとても丁寧でわかりやすいということです。先生方の努力が伝わります。	<input type="checkbox"/> 習熟度別授業、MIM、漢字・算数検定は継続実施。 <input type="checkbox"/> 週末課題の自己選択・個別化も継続実施。効果的な自己選択に向けた指導が必要。 <input type="checkbox"/> 日常的な授業改善を継続的に行う。特に、学力向上プランを中心に進める仕組みを整備する。
		いじめ問題に組織的に取り組む。 (結果) いじめ・生活アンケートを計画通り実施できた。毎回、係が集約することで、児童の様子を把握してきた。いじめの事案が発生したが早期発見・早期解決できた。アンケートの内容を改善できた。教員AB評価 100%	4 ・いち早い取り組みを期待する。 ・これまでの取組を継続してください。 ・アンケート等で把握できないいじめがないか心配をお願いしたい。	<input type="checkbox"/> 「SOSの出し方に関する教育」を実施する。 <input type="checkbox"/> 保護者と学ぶ学習を設定する。 <input type="checkbox"/> 教育相談週間を保護者にも知らせる。 <input type="checkbox"/> 心の教育を推進する教育課程編制の実施。
		総合所見 学力向上推進委員会を中心として、短期検証改善サイクルを循環できた。データをもとにした取組を継続する。生徒指導委員会も定例実施でき、不登校・不登校兆候の児童についての共通理解を進めることができた。各部の推進については、CAP・Dシートにより取組の進捗を確認しながら進めてきた。来年度も取組を継続する。		
やさしい子		1 「学校は楽しい。」という子どもを育成する。 (結果) 多くの児童が学校は楽しいと答えている。児童AB評価 94% 教員AB評価 100%【総合 96%】	4 ・今は、接触がしづらい状態であるので把握しづらい。 ・人間関係づくりとともに教育内容を充実させてください。	<input type="checkbox"/> 学習づくり、生活(環境)づくり、仲間づくりを継続して充実させる。
		2 縦割りで楽しく活動する子どもを育てる。 (結果) コロナ禍ではあったが、高学年が主体的な活動を創造し、ふれあいができる縦割り活動が表現できた。そのつど、グループや班を単位にふり返しを行うことができた。児童AB評価 99% 教員AB評価 100%【総合 99%】	4 ・コロナ禍でも、子どもたちのために多くのことを考え、実行して下さる先生方の姿が、大変うれしく思いました。	<input type="checkbox"/> 各学年の発達の段階に応じた縦割り活動における立ち位置を整理し、個人としての振り返りを充実させる取組を継続する。
		3 自分から進んであいさつをする子どもを育てる。 (結果) あいさつ週間を設けて委員会が中心となり、朝から昇降口前に立つことができた。児童AB評価 91% 教員AB評価 100%【総合 95%】	4 ・学校と家庭での指導が重要である。 ・学校内での評価は高いが、学校外ではできていない声を聞くことがあった。	<input type="checkbox"/> あいさつ週間は、継続実施。 <input type="checkbox"/> 道徳科における学習を充実させ、挨拶の価値をしっかりと学習させる。そして、生活の中で実践し、評価できるようにする。
		4 人が傷つく言葉を言わない子どもを育てる。 (結果) 全校で言葉についての学習が実施できた。児童の実態から、保護者にも啓発する手紙を出した。児童AB評価 93% 教員AB評価 85%【総合89%】	4 ・メディアに対する取組の強化をしてはどうか？ ・児童には心理状況や家庭背景の影響も考えられ、長期的な指導が大切。	<input type="checkbox"/> 道徳教育、人権教育を充実させ、言葉の重みについて考えさせる。 <input type="checkbox"/> PTAと連携して、言葉遣いの大切さについての取組を行う。
		5 「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」が素直に言える子を育てる。 (結果) 言葉の大切さについて、学年に応じた指導ができた。個の特性に応じた対応が必要である。児童AB評価96%教員AB評価92%【総合 94%】	4 ・挨拶の評価が高いので落ち着いて学校生活ができていますと感じました。	<input type="checkbox"/> 道徳教育推進教師を中心として取組の評価・改善を図る。
総合所見		6年生が最上級生としての意識を高め、縦割り活動に向き合うことができた。コロナ禍で行事が制限される中、6年生が中心となり、工夫してみんなで楽しめる活動をたくさん生み出していくことができた。言葉遣いのトラブルを全校の課題ととらえ、みんなで考えあう学習ができた。		

ま ま な ぶ 子	1 先生や友だちの話を聞く子どもを育てる。 (結果)先生や友だちの話を落ち着いて聞く習慣が定着している。児童AB評価 94% 教員AB評価 100%【総合97%】	4	・取組を継続する。	□話す・聞くの指導について全職員で年度当初共通理解し、評価・改善を図る。
	2 自分の考えを書いたり、進んで発表したりする子どもを育てる。 (結果)自分の考えを書く、表現する基となる思考力を付けるため、主題研修として思考活動の設定に全職員で取り組み、実践を交流することができた。児童AB評価 91% 教員AB評価 90%【総合90%】	4	・取組を継続する。	□主題研修を中心に各単元において、「書く活動」と「交流する活動」を位置づけ実施する。
	3 図書館の本をたくさん読む子どもを育成する。 (結果)「うちどく」の取組、図書委員会の活動、てんとう虫号、読み聞かせ、読書習慣の確立につながる取組を実施できた。しかし、スポーツフェスタ等の行事の時期に読書量が減少していた。児童AB評価 74% 教員AB評価 82%【総合 78%】	3	・学年によって評価が低いところがあると感じた。	□継続実施する。 □教科学習における図書の活用を促すとともに、読んだ本の記録を忘れないようにさせる。 □行事の時期に評価が低くなる傾向にあるため、大きな行事の際の取組を考える。
	4 下山田や嘉麻市の「ひと・もの・こと」を活用して、地域のことを楽しく学ぶ子どもを育てる。 (結果)新型コロナ感染症対策により、地域の方との交流や地域資源の活用が制限されたが、実施可能なものは実施できた。また、視聴覚機器や関係資料等を活用することで補った。児童AB評価96% 教員AB評価100%【総合 98%】	4	・児童アンケートも高いのでこれからも地域のことを学ぶ取り組みを継続してください。	□「社会に開かれた教育課程」として評価・改善を継続していく。 □公民館との情報共有に努める。 □コミュニティ・スクールを中心に持続可能な仕組みを構築する。
	5 家庭で約束の時間、学習できる子どもを育てる。 (結果)家庭学習の時間が守れている児童は80%。土日に学習できている児童が85%。嘉麻市の目標指数をクリアできなかった。児童AB評価90% 教員AB評価89%【総合 89%】	4	・PTAと協力し、家庭学習の大切さを浸透してはどうか。 ・今後協議すべき課題であると思う。	□家庭学習の進め等をPTAと連携して、取組を強化する。
	総合所見 社会に開かれた教育課程の実現をめざし、コミュニティ・スクールの推進を図るための地域資源の活用について、教育課程の中に位置づけて編成する。家庭学習の指導については、担任間で格差が生じてしまった。学力委員会でPDCAサイクルを回し、特に「D」の徹底を図るようにする。家庭学習に対して、家庭と連携する取り組みが必要である。			
だ た く ま し い 子	1 学校を休まないように気をつける子どもを育てる。 (結果)2月時点で、不登校児童0。不登校兆候児童1名。児童AB評価97% 教員AB評価92%【総合 94%】	4	・保護者の責任、考えの問題 ・楽しい学校・学習と関連させて家庭と連携した取り組みの充実を図り、児童の心の元気が出るようになればと思います。	□アクション3に基づく取組を再確認し、継続する。
	2 元気よく外で遊ぶ子どもを育てる。 (結果)休み時間は外で遊ぶ姿が多く見られ、体育委員会や学級での取り組みの工夫により、みんなで元気に遊ぶ機会を多くつくることができた。児童AB評価 93% 教員AB評価 100%【総合 96%】	4	・休み時間だけでなく登校直後から校庭で寒い中遊ぶ姿が多くみられる。今後も続けてほしい。	□体力アップシートの活用により、外遊びを推奨する。 □子どもの創意工夫した活動を活かしていく。 □子どもの意見を取り入れていく。
	3 掃除の時間、一生懸命がんばる子どもを育てる。 (結果)掃除頑張り週間の設定では、主体的に掃除の活動を展開できた。教師のほめる働きかけにより一生懸命頑張る姿が見られた。児童AB評価 99% 教員AB評価 86%【総合 83%】	4	・とにかく掃除をまじめにする子が多い、小学校の取組のおかげである。	□校舎内外のどこが汚れているのかを意識する活動を仕組む。
	4「早寝・早起き・朝ごはん」ができる子どもを育てる。 (結果)PTAの「スマイリーノート」の取り組みと連携して、基本的な生活習慣を身に付ける取り組みを実施した。児童AB評価 81% 教員AB評価 82%【総合 82%】	4	・全体的にポイントが低いので、とくに「早寝」を徹底させてほしい。	□PTAの「新家庭教育宣言」の取組を有効活用しながら、「早寝」を推進する内容を家庭への啓発を行う。 □中学校区の取組であるノーメディアの取組を継続する。
	5 安全に注意して登下校できる子どもを育てる。 (結果)大多数の児童は、安全に気をつけて生活できている。児童AB評価 100% 教員AB評価 100%【総合 100%】	4	・登下校時、縁石ブロックの上を歩く児童がたまに見られる。 ・マナーの悪い車両も多く、飛び出しをしない・自転車に乗るときは注意などを指導する。	□交通安全教室・防犯教室等)を活用しながら、日常の安全教育を徹底する。 □毎月の登校指導日に、安全確保の観点で点検する。
	総合所見 コロナ禍であったが、交通安全教室を実施することができた。登下校時には保護者や地域の方の協力が得られている。生活の評価・改善については、強化週間を節目としながらも、日々、自らの生活を省みる態度の形成を目指す。また、個に応じた指導や対応について、継続していく。			